



NIPPON BEARING

8月27日付 日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】 車載半導体の市場伸び率は今後10年でいまの何倍？

- ① 1.2倍 ② 1.4倍 ③ 1.8倍

【答え】 ③1.8倍

【解説】

様々な電化製品の中に組み込まれている半導体。身近なところでは、スマートフォンや家電製品の中で活躍しています。

中でも近年、搭載数が増加しているのが車載半導体で、今後約10年で現在の1.8倍程度の市場規模になると見込まれています。

(2019年314億ドル→2030年586億ドル ※出所：(株)矢野経済研究所「車載用半導体の世界市場に関する調査(2019年)」2020年4月2日発表)

半導体は、導体〔電気が流れる〕と絶縁体〔電気が流れない〕の中間の性質を持つ物質です。この性質を利用して作られたのが、トランジスタやIC〔集積回路〕で、電気の流れを制御することが出来ます。一般的には、これらを総称して半導体と呼んでいます。

半導体技術は常に進歩しており、パワー半導体と呼ばれる大きな電力を扱える半導体も登場しています。

一方、車も登場以来、《より速く》《低燃費で》《安全に》と、開発・進化してきました。

特に近年、《安全性》への関心が一層高まり、自動運転技術の開発も進んでいます。

エンジン制御を始め、様々な技術を実現するために不可欠な部品が、半導体です。

半導体と車、双方の開発と進化が、車載半導体の需要を大きく伸ばしていると考えられます。

半導体と車は、切っても切れない関係と言えるのではないのでしょうか。

【企画・協力：(株)学研エデュケーショナル】